

《留学生向け特別授業（2単位）》

学 部：日本法入門

大学院：法政理論特殊講義（修士課程）

法政理論特別研究（博士後期課程）

このことについて、下記のとおり開講しますので、履修希望者は担当係（学部生：教務担当，研究生・大学院生：学事担当）で履修登録期間に登録してください。

記

【授業内容】

学部生，研究生，大学院生として来日したばかりの留学生を対象に，日本の法学・政治学の基礎的理解を得ることを目的とする授業（詳細については，別紙参照）

【担当教員】

伊藤隼，齊藤正彰，松尾誠紀，水野浩二，村上裕一

【授業日程】（予定）

9月27日（月）	1 講目	（担当：伊藤 隼）
10月 4日（月）	1 講目	
10月11日（月）	1 講目	
10月18日（月）	1 講目	（担当：齊藤 正彰）
10月25日（月）	1 講目	
11月 1日（月）	1 講目	
11月 8日（月）	1 講目	（担当：松尾 誠紀）
11月15日（月）	1 講目	
11月22日（月）	1 講目	
11月29日（月）	1 講目	（担当：水野 浩二）
12月 6日（月）	1 講目	
12月13日（月）	1 講目	
12月20日（月）	1 講目	（担当：村上 裕一）
12月27日（月）	1 講目	
1月17日（月）	1 講目	

全15回

【実施方法】

オンライン授業（実施形態詳細はELMSで周知）

【評価方法】

授業参加態度及び各担当者のレポートによる。

令和3年9月6日 教務担当・学事担当

○(担当：伊藤 隼)(3回)

本講義では、日本の民事法（民法、民事訴訟法）に関する大まかな見晴らしを提供する。

3回の講義では、民法の基本構造・基本概念について確認したうえ、民事訴訟の一般的な流れについて説明する予定である。

成績評価は、講義内容に関する1000字程度のレポートによって行う。

なお、授業はZoomによる同時配信の方式で実施する。

アクセス方法等はELMSを通じて追って指示する。

○(担当：齊藤 正彰)(3回)

日本国憲法に関する概略的な理解のために、おおよそ次の内容を説明することを予定している。

①憲法と立憲主義をめぐる基本的な考え方

②日本国憲法の人権保障と違憲審査制

③日本国憲法の統治機構と平和主義

授業は、オンデマンド方式で実施する（音声つきPowerPointをELMS上に掲載する）。

成績評価は、講義内容に関する1000字程度のレポートによって行う。

○(担当：松尾 誠紀)(3回)

本講義では、刑事法に関する基礎的知識の修得を目的とする。

各回の講義では、次の内容を予定している。

①刑法の基礎。正当防衛など。

②刑事訴訟法の基礎。裁判員制度。

③刑事政策学の基礎。少年事件の手続。

授業は、オンデマンド形式により実施する予定である。

成績評価は、講義内容に関する1000字程度のレポートによって行う。

○(担当：水野 浩二)(3回)

近代の日本法は欧米諸国、とりわけドイツとフランスの法制度をほぼそのまま取り入れること（継受という）によって成立したものであるが、その後の運用に際してはかなりの「日本化」を示してもいる。私の担当分（3回）では法史学を中心に法意識論・法文化論などもふくめ、いわゆる基礎法学の観点から近代日本法の特徴を講ずることにしたい。Zoomを用いて授業を行う予定である。

受講者は講義内容についてのレポートを1000字程度にまとめて提出することが求められる。

○(担当：村上 裕一)(3回)

政治学・行政学と日本の政治・行政について、概論的な講義を3回に渡って行う。講義では、日本の政治・行政の具体的な現象・事例を採り上げ、政治学・行政学の基礎理論・概念を用いて解説したい。担当者の専門分野にも引き付けつつ、執政の制度・仕組みと運用、官僚制の組織と活動、国際・国内（中央・地方）の政治・政策過程といったことをテーマとする予定である。成績評価はA4紙1枚のレポートの出来によって行うが、講義（オンデマンドかZOOMミーティング）の受講態度もそれに多少反映する方策を考えたい。受講者には、開講までに新聞等で日本の政治・行政の現象・事例に触れておくことをお勧めする。